

『信頼される刑事司法とは？—市民と警察・裁判』

開催趣旨

近年、公務員の不祥事が相継ぐ中、行政に対する信頼はこれまで以上に大切になってきています。警察や裁判などの刑事司法も例外でなく、住民との信頼構築が問われています。

龍谷大学矯正・保護総合センター・実証研究プロジェクトは、2010年度から3年間にわたり、科学研究費補助金の助成を受け、刑事司法に対する信頼について、EUのTrust in Justice調査と提携して共同調査を行いました。このたび、その成果を国際シンポジウムにて公表します。

メインゲストとして、マイク・ハフ教授（ロンドン大学）とロレイン・メイゾロール教授（クイーンズランド大学）のお二方をお迎えします。ハフ教授は、上記調査の責任者であり、国際比較を通じてプロシージャル・ジャスティス理論*の検証を行っています。また、メイゾロール教授は、当該分野において、実証的根拠に基づいた研究を行っている気鋭の犯罪学者です。シンポジウムでは、お二方に基調講演をお願いするとともに、パネリスト、コメンテーターからなるパネルディスカッションを開催します。

多くの皆様のご来場をお待ちしています。Ustreamでの中継も予定しています。詳細は龍谷大学矯正・保護総合センターのホームページ（<http://rcrc.ryukoku.ac.jp/>）をご確認ください。

*プロシージャル・ジャスティス理論とは、刑事司法に対する市民の信頼が刑事司法の権力行使の正統性を高め、さらに、市民からの理解や協力につながるといった考え方です。そこでは、刑事司法が市民の尊厳を重んじ、公正かつ親身な対応を行い続けることが不可欠であると提唱します。

講演者紹介

●マイク・ハフ Mike Hough（ロンドン大学パークベック校教授兼刑事政策研究所共同所長）

ハフ教授は、元イギリス内務省研究官で英国犯罪調査の立ち上げメンバーの一人。その後、ロンドン・サウスバンク大学、ロンドン大学キングス・カレッジ校を経て現職。元イギリス犯罪学会会長（2008-2011年）。現在の研究テーマは、刑事司法に対する市民の信頼、市民の体感治安と刑事司法、警察活動と警察権力の正当性など。

●ロレイン・メイゾロール Lorraine Mazerolle（クイーンズランド大学社会科学研究所教授）

メイゾロール教授は、クイーンズランド大学社会科学研究所「警察活動と治安」のプログラムディレクター兼オーストラリア研究会議の警察・治安研究所および薬物政策モデルプログラムの主任調査官。研究テーマは、コミュニティの規制、問題解決指向型の警察活動、街頭における麻薬取り締まりなど。

【申込締切】2013年3月13日（水）必着

【お問い合わせ、お申し込み先】

インターネットの方

- 矯正・保護総合センターのホームページ（<http://rcrc.ryukoku.ac.jp/>）からお申し込みください。上部にある「お申し込み」ボタンをクリックしてください。
- 「お申し込み」フォームの必要事項（お名前・ご住所・メールアドレスなど）を入力した後、送信ボタンをクリックしてください。登録されたメールアドレスに受付完了メールを返信いたします。

FAX・郵便の方

下記の参加申込書にご記入の上
FAX送信もしくはご送付ください。

龍谷大学矯正・保護総合センター
Fax.075-645-2632

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67
Tel.075-645-2040

参加申込書

ふりがな				才	男・女	ご所属・ご職業 (差支えなければ)
お名前						
ご住所	〒					
Tel		Fax		e-Mail		